

名事研=ユース

一面

一面 名古屋市立小中特別支援学校事務職員研究大会
二面 全体研修会報告・新潟視察・全事研セミナー報告

グラントデザイン第二期へ

『第二十一回の研究大会開催される』

研究発表

『ともにつくろう！ 新しい時代の学校』
名古屋市立小中特別支援学校事務職員研究大会

発表者 川北 貴之 氏 (名古屋市立名城小学校 校長)

「第一期名古屋の学校事務のグラントデザイン」(以下、第一期名古屋GD)においては、子供たちの輝く未来のための学校づくりを推進することを目標とし、めざす学校事務像、学校事務職員像を設定しました。その達成のための五ヶ年における行動計画について実践した成果と課題についての報告がありました。昨年度までの四年間の報告に続き、今年度の年次テーマの「学校事務の高度化」教育課程の実施と学校事務機能」について報告がありました。

研修部は兵庫教育大学教授 日渡氏を研修会講師に迎え、「教育課程と学校事務職員」教育課程への関わり方入門」を開催しました。情報部は他都市の学校事務職員の教育課程への関わりについて情報収集を行いました。研究部は教育課程やその編成・実施に学校事務職員がどのように関わることができるか、その方策を考えました。教育課程とは何を指すのかを整理し、各区の世話係・事務局員・専門部員・役員を対象に年次テーマに関するアンケートを実施しました。その結果、教育課程は学校事務職員の役割と関連があると九割の回答者が考えてお



第1期名古屋GDの成果と課題を発表する松栄小学校 遠藤 剛氏



第2期名古屋GDの提案をする港明中学校 小島 啓治氏

り、購入した教材や整備した施設の利用状況を確認したり、予算計画時に活動内容を教職員と一緒に考えたりしていることが分かりました。教育課程を編成するのは学校であり、その編成や実施において教員と学校事務職員が互いの専門性を発揮しながら協働することは必然であると考えます。学校事務職員には、学校の資源を効果的に活用できるようにカリキュラムマネジメントを確立し、教育の質を高めることが求められているといった内容の研究報告がありました。

第一期名古屋GDに関するアンケートの結果から、戦略に対する周知が不十分、行動計画は立場や経験の違いによって取り組むことが難しいなどといった課題も分かりました。しかし、成果として第一期名古屋GDを策定し、五年間の年次テーマを設定した事でそれに沿った研究計画を立て、先を見通した研究活動を行うことができました。今後めざす像の実現に向け名事研組織や個人が名古屋の子どもの達のために何ができるか考え、取り組んでいける名古屋GDが必要であることとし、「第二期名古屋の学校事務のグラントデザイン」(以下、第二期名

平成二十八年一月二十日に第二十一回名古屋市立小中特別支援学校事務職員研究大会が開催されました。当日は、中区、熱田区による研究報告から始まり、研究発表では、『ともにつくろう！ 新しい時代の学校』名古屋の学校事務のグラントデザイン第二期へ』をテーマに、三つの戦略が示され、個人と名事研組織がそれぞれめざす像や戦略を意識した実行策の設定についての提案がありました。意見交換では、参加者が実際に個人の目標を設定し、発表するなど、活発な大会となりました。今号では、全体研修会、新潟視察、更に全事研セミナーの参加報告を掲載します。

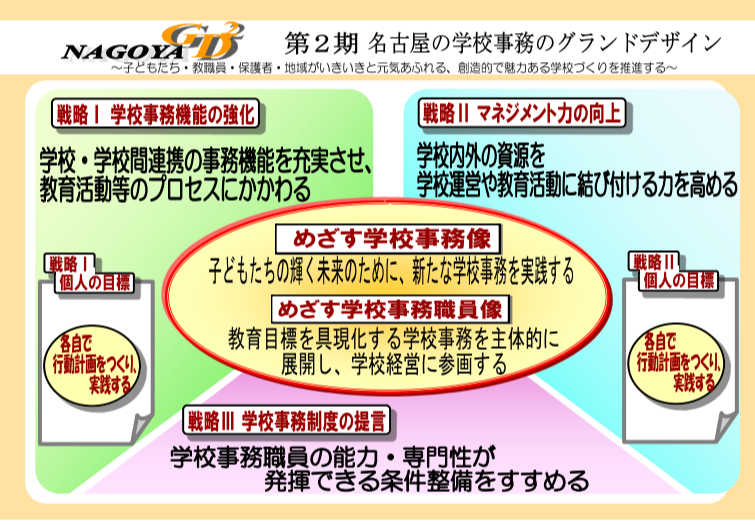
古屋GD)の提案へと続きました。続いて第二期名古屋GDの提案がありました。まず第二期名古屋GD策定の経緯が説明されました。学校事務職員を取り巻く環境が大きな転機を迎えている中でも、「子どもたちのために力を尽くす」という役割を果たしていくことが重要であり、そのため、第一期名古屋GDで策定した、めざす学校事務像「子どもたちの輝く未来のために、新たな学校事務を実践する」と、めざす学校事務職員像「教育目標を具現化する学校事務を主体的に展開し、学校経営に参画する」は第二期名古屋GDでも継続していくことを確認しました。そして、めざす像を具体的にイメージできるように、三つの視点「学校事務職員の専門性を生かし、学校運営や教育活動について提案すること」「学校内外の資源を結びつけ、活用すること」「学校運営事務全般に精通し、総括すること」を示しました。この三つの視点から学校経営に参画することをイメージすることで、めざす学校事務職員像について、共通の認識をもつ

ことができるのではないかとしました。

次に第二期名古屋GDの図が示されました。中心には変わらない理念としてのめざす像があり、その像の実現のための三つの戦略「学校事務機能の強化」、マネジメント力の向上、「学校事務制度の提言」が配置されています。そして、第二期名古屋GDは、第一期名古屋GDが皆で同じ年次テーマを取り組んでいたのに対し、年次テーマは設けず、個人の取り組みとして、戦略I、IIを意識した個人の目標を設定するとし、名事研組織においては戦略I、II、IIIを意識し、事業計画に反映していくとしました。発表では主事Aさんと事務長Bさんの個人の目標が例示され、実際にどのように目標を設定していくべきなのか、参加者がイメージしやすいう、具体例の提案がありました。最後に、名古屋GDとは「なごやっ子の育ちに学校事務職員として、どのように取り組んでいくのかを示した『宣言』」とも言えるとし、名古屋GDがあることで、目指すものが明確となり、一人一人が意識して実践することができるようになると考えているとのことでした。

川北氏からの助言

助言者の川北先生からは、「学校事務職員の専門性を生かし、自負とプライドを持って積極的に学校経営に参画してほしい」とのご助言をいただきました。また、個人で目標を設定することについて、「目標に差は出るが、それでよい。自分に合った目標でいっしょに『山』の頂上に達することができれば」と述べら



第2期名古屋GD図 (一部簡略化)

区研究報告

(中区研究報告)

中区は、「学校間連携同士の連携」と「グループ研究」を柱に研究を進めています。

学校間連携同士の連携では、二つの学校間連携ブロック間で定期的な情報交換を行い、課題や情報を共有し、職務を遂行するための知識を深めています。グループ研究では、『より適正な事務処理のために』を区の研究テーマに掲げ、経験年数を考慮し三グループに分け、管理職や教職員に向けた資料作りに取り組みました。学校内で教職

(裏面へ続く)



研究発表についての助言をする川北氏



新しい薬品台帳の管理方法



員全員に予算計画から執行までの流れを理解してもらうために「教職員向け学校予算パンフレット」を作成しました。過去の学校事務監査から事務の適正化を図るため「工事依頼時のポイント」・「外部記録媒体の利用について」を作成したり、教職員にもわかりやすく簡単に、かつ管理の徹底ができるような方法として、メジャーシールを薬品の瓶の側面に貼る方法を取り入れた「新しい薬品台帳の管理方法」など、それぞれの研究活動における経緯や成果物の活用について報告しました。

【熱田区研究報告】

熱田区は、「経理決裁書文例集」と「分校における学校事務に係る課題」を中心に研究を行いました。「経理決裁書文例集」では、二回のアンケートを実施して意見を集約し、新規・削除する決裁書の研究をしました。また、各決裁書に担当を決め区事務研の共有フォルダを利用することで担当だけでなく区内の誰もが決裁書を随時更新できるようにして、区事務研の場で相互確認を行いました。経理決裁書文例集全体の更新は、参考として利用するためにできるだけ多くの決裁書を集め、様式を統一し、業者選択と消費税率について変更し、今年度版として「決裁書二〇一五」の更新を行いました。「分校における学校事務に係る課題」では、今年度開設された南養護分校の課題と二つの校舎からなる日比野中を比較検討し、それぞれの課題の共有を行いました。また、南養護分校の施設見学を行うことで施設の課題点を体感し、今後の改善につなげる研究を行いました。



全体研修会

「教育課程と学校事務職員」 「教育課程への関わり方入門」

本研修会は、学校事務職員が教育課程の編成や実施にどのように関わることができるか考えることで、学校経営により一層積極的に参画できるようになることを目指して開催しました。講師として、兵庫教育大学 先導研究推進機構教授 兼 教育政策トップリーダー 養成カリキュラム 研究開発室室長 日渡 円氏をお招きし、ご講演いただきました。事前の募集では二百名以上の申し込みをいただき、教育課程と学校事務職員との関わりについて、関心の高さがうかがえました。

講演は、名古屋市の控える権限移譲を教育課程に関連させて進められました。それは、教育課程への関わり方も含めた学校事務職員という職のあり方に、権限移譲が大きな影響を与えるからです。日渡氏からは、「権限移譲のメリットとデメリットをしっかりと把握すべきである。学校事務職員にとっては大きな変化であり、職のアイデンティティに関わることである。学校事務という職が専門職化するか一般職化するかを考えなくてはならない。」というお話がありました。そして、学校事務職員の数が少ないことを踏まえると、「専門職化しても現状のままであればゆるやかに退化してしまう。発展していくためには学校マネジメントの修得が必要になる。また、一般職化は市の職員のなかに混じっていくことで、難しいことではないが、市役所とは異なるマネジメントが必要な学校現場は敬遠されるようになり、教育によくない影響がでることが予想される。」とのことでした。これらのことを踏まえ、日渡氏としては、専門職を目指してほしいとのことでした。

そして、専門職として働くために、教育課程の理解と推進が大切だとのお話がありました。そもそも学校の目標は教育課程の実施を通して達成されるものであり、教育課程とは学校の教育目標達成の

ための作戦表である、とのことでした。

さらに、「通常、教育課程と呼ばれているものは、書物であり、『見えるカリキュラム』とも言われているが、一方で、『隠れたカリキュラム』と呼ばれているものもある。それは施設や備品、植栽などであり、それらも教育課程の実施に影響を与えている。このような『隠れたカリキュラム』は学校事務職員の担える教育課程である。また、学校をとりまく環境や自然も教育課程に無関係とは言えない。これらは学校事務職員の力だけで推進できるものではないが、これらと教育課程を関連付けることはできる。」というお話がありました。そして、このような取り組みを通じて、学校事務職員が教育課程に関わっていきける、とのお言葉をいただきました。

その後、ワークシートへの取り組みを行い、本研修会で感じたことや学んだことなどをひとりひとりが確認し、それを近くの受講者同士で共有しました。およそ八十分の講演でしたが、研修会後のアンケートからは、「時間が短かった。」「もっとお話を聞きたかった。」「などの感想も見られました。また、アンケートでは、研修会で学んだことを現場でいかしていく方法について、様々な意見が出されました。今回の研修会で学んだこ



全体研修会の講演を行う日渡氏

名事研では、新潟市における共同実施の制度についての情報収集や他都市制度の研究を深めるために新潟県への視察を行いました。また、全事研セミナーが平成二十八年二月十日に東京都北区の北とびあで開催され、名事研からも複数の方が参加しました。皆様への今後の研究活動の一助として新潟市の視察や全事研セミナーで得た情報を還元するため、今回参加した方の視察内容や受講した感想について報告します。

新潟市視察

とを学校現場で積極的にいかし、学校経営により一層積極的に参画するための一助としていただければと思います。

名事研研修部では、この他にも様々な研修会を年間を通じて企画・運営しています。ぜひ、会員の方の積極的なご参加をお願いいたします。

新潟市はもとも新潟県で行われていた共同実施の制度を、平成十九年に政令市になった際に継続しているため、全県下が同一の共同実施制度となっています。現在は全市十八グループで構成され、それを地域ごとに三つの地域学校事務支援室が統括しているのが特徴です。その室長には総括事務主幹が発令され、職名に応じた役割と責任が明確になっています。新潟市のもう一つの特徴は、市教委に事務職員の管理主事が割愛されており、事務職員だけでなく、学校事務にかかる校長研修等、幅広い業務に携わり事務職員の地位向上に尽力されていることです。事務職員の人事にも関わり、共同実施のグループ長に面接等を行い、意欲、能力等からグループ長としてふさわしい人材が現在のグループ数に満たない場合は、グループ数を変更するなど（以前は全市二十三グループだった）、質の高い共同実施運営におけるリーダーの資質を重視した柔軟な組織運営を行っています。また、この面接には三名の地域学校事務支援室長も参加しており、現場でも活動している事務職員の意見を取り入れた人材配置がされています。視察の際には、複数のグループ長の方と意見交換をしました。書類点検に止まらない実践として新潟市の共同実施要綱にある「地域連携コーディネーター」の役割など、今後どのように取り組んでいくか悩んでいる部分もあるとのことでしたが、それぞれのグループ長が共同実施をもっと良くしていこうという意識の高さを感じました。

平成二十七年度 全事研セミナー 参加レポート

全事研セミナーでは、午前中に文部科学省の行政説明会がおこなわれました。平成二十八年度の政府予算案の説明があり、社会保障関係費の増加により、文教及び科振費関係費が昨年に比べると減少しているとの事でした。その中でも、教職員定数の改善の予算は増加されており、チーム学校の推進による学校の組織的な教育の充実にも力を入れていると感じました。

午後からは、「学校のガバナンス改革」をテーマに、千葉大学教育学部教授天笠氏、ベネッセ教育総合研究所副所長木村氏の講義がおこなわれました。天笠氏は、学校事務職員に求められる役割として、学校の組織力を高め、情報の中継点に立ち、参加・参画を支えることにより、「学校のマネジメントへの貢献」することだと話されました。木村氏は、学校経営を船の航海に例えられ、「組織が機能しないと目的地にたどり着けず、船が沈んでしまうが、チーム学校として多様な専門人材が、参画し、学校のマネジメントが組織的に進むことにより、航海をおこなうことが出来る。」と話されました。それぞれの学校教育目標を理解して、事務職員として、目標を達成するために何が出来るのかを課題にしていく事が大切だと思いました。

◆◆ 編集 後記 ◆◆

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

今回の名事研ニュースは、研究大会を中心とした内容を掲載しました。今回の研究大会では、第二期名古屋GDが提案されました。

今後も皆様と名古屋GDの活動を進めていく上で、名事研活動に興味を持っていただけたような紙面作りからこれからも取り組んでいきたいと思えます。

今後とも名事研活動にご協力下さい。